



対策案検討の基本的考え方について

2-1-1. 対策案について

ステップ3から検討する対策案については、将来の姿及び沖縄の陸上交通の現状から確認された課題を踏まえ、以下のとおり、公共交通に求められる役割・取組を整理した上で検討を行う。

(1) 将来の姿及び現状から確認された「課題」

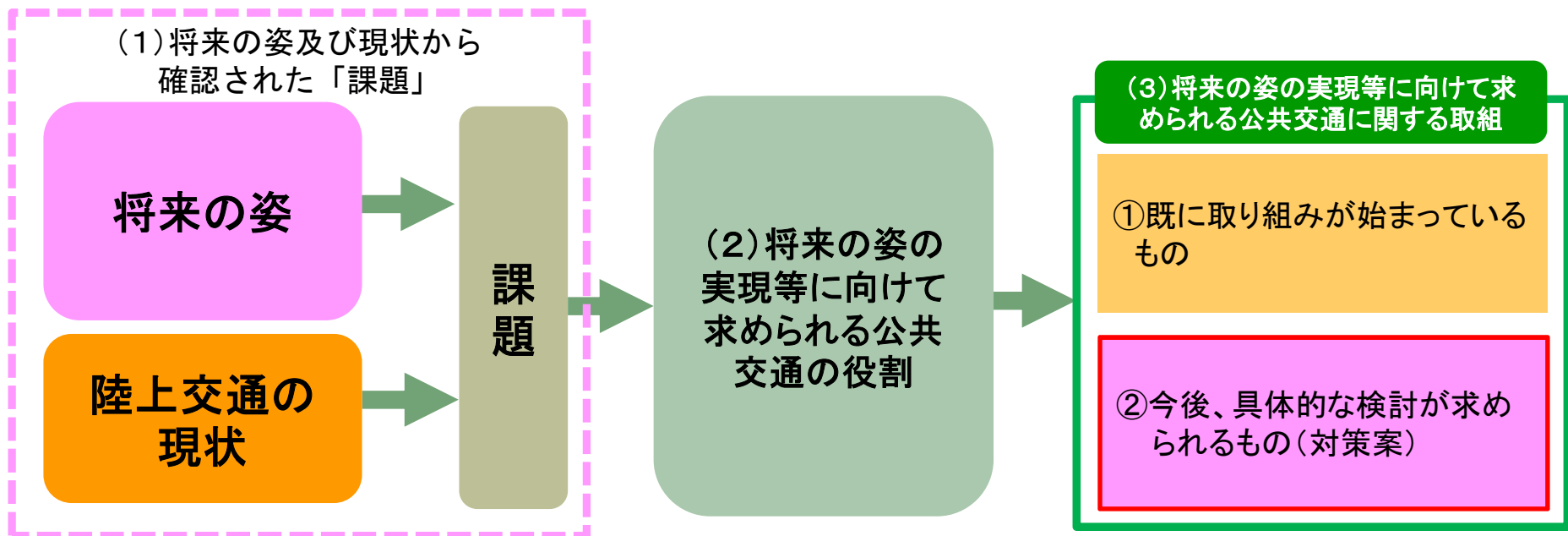
- ①沖縄21世紀ビジョン等で示された将来の姿の実現に向け、達成すべき目標である「県土の均衡ある発展」や「県民及び観光客の移動利便性向上」等を「課題」として整理。
- ②ステップ2において、沖縄の陸上交通の現状から、問題を解決するためになすべきこととして設定した「県土の均衡ある発展」や「県民及び観光客の移動利便性向上」等の「課題」について、県民と情報共有を図り確認。

(2) 将来の姿の実現等に向けて求められる公共交通の役割

上記(1)で確認された「課題」について、沖縄21世紀ビジョン等で示された将来の姿の実現及び沖縄の陸上交通の現状の問題解決に向けて求められる公共交通の役割を整理。

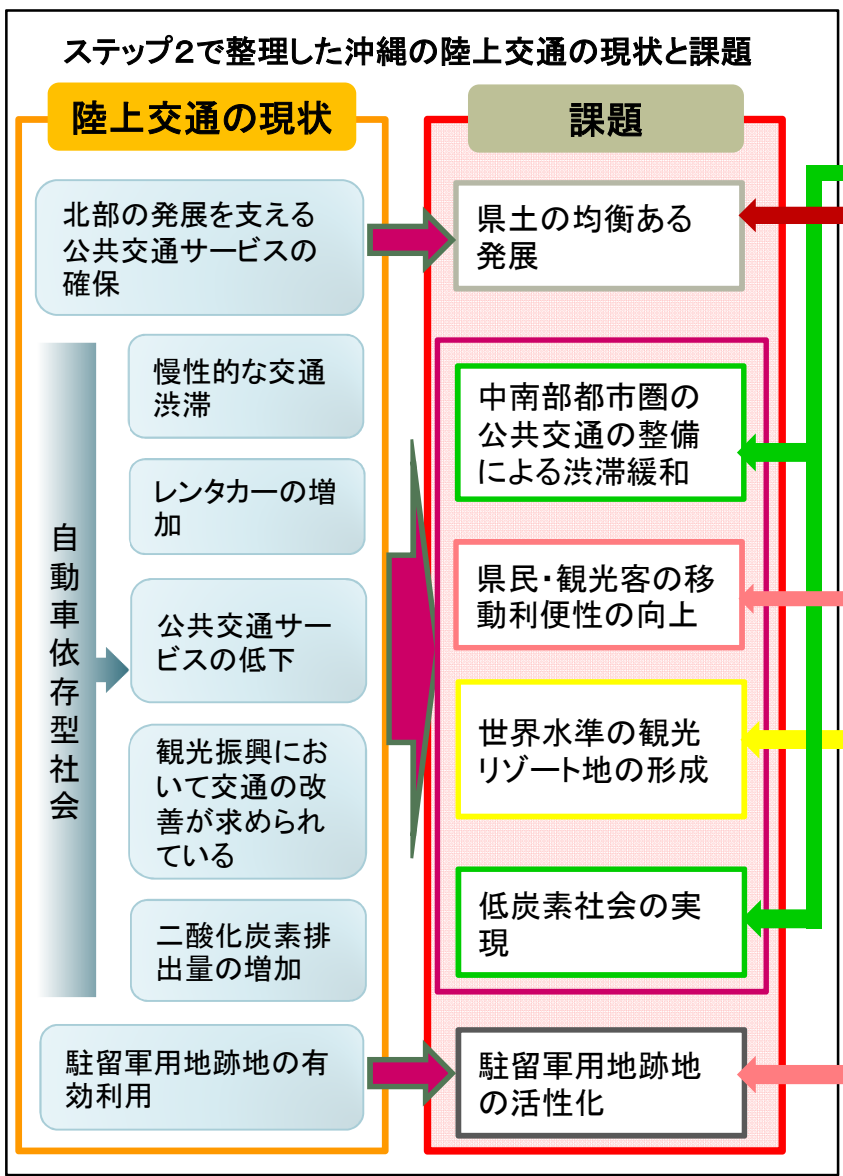
(3) 将来の姿の実現等に向けて求められる公共交通に関する取組

上記(2)を踏まえ、将来の姿の実現等に向けて求められる公共交通に関する取組について、①既に取り組みが始まっているもの、②今後、具体的な検討が求められるものに整理し、②を「対策案」として検討を行う。



将来の姿及び現状から確認された「課題」

・ 将来の姿とステップ2で整理した沖縄の陸上交通の現状・課題の対応関係は以下のとおり



将来の姿(沖縄21世紀ビジョン基本計画)

将来像Ⅰ 沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島

- 自然環境の保全・再生・適正利用
- 低炭素島しょ社会の実現
- 価値創造のまちづくり
- 人間優先のまちづくり

など

将来像Ⅱ 心豊かで、安全・安心に暮らせる島

- 健康・長寿おきなわの推進
- 健康福祉セーフティネットの充実

など

将来像Ⅲ 希望と活力にあふれる豊かな島

- 自立型経済の構築に向けた基盤の整備
- 世界水準の観光リゾート地の形成
- 情報通信関連産業の高度化・多様化
- 科学技術の振興と知的・産業クラスターの形成
- 沖縄の魅力や優位性を生かした新たな産業の創出
- 亜熱帯性気候等を生かした農林水産業の振興
- 駐留軍用地跡地の有効利用の推進

など

将来像Ⅳ 世界に開かれた交流と共生の島

- 世界との交流ネットワークの形成

など

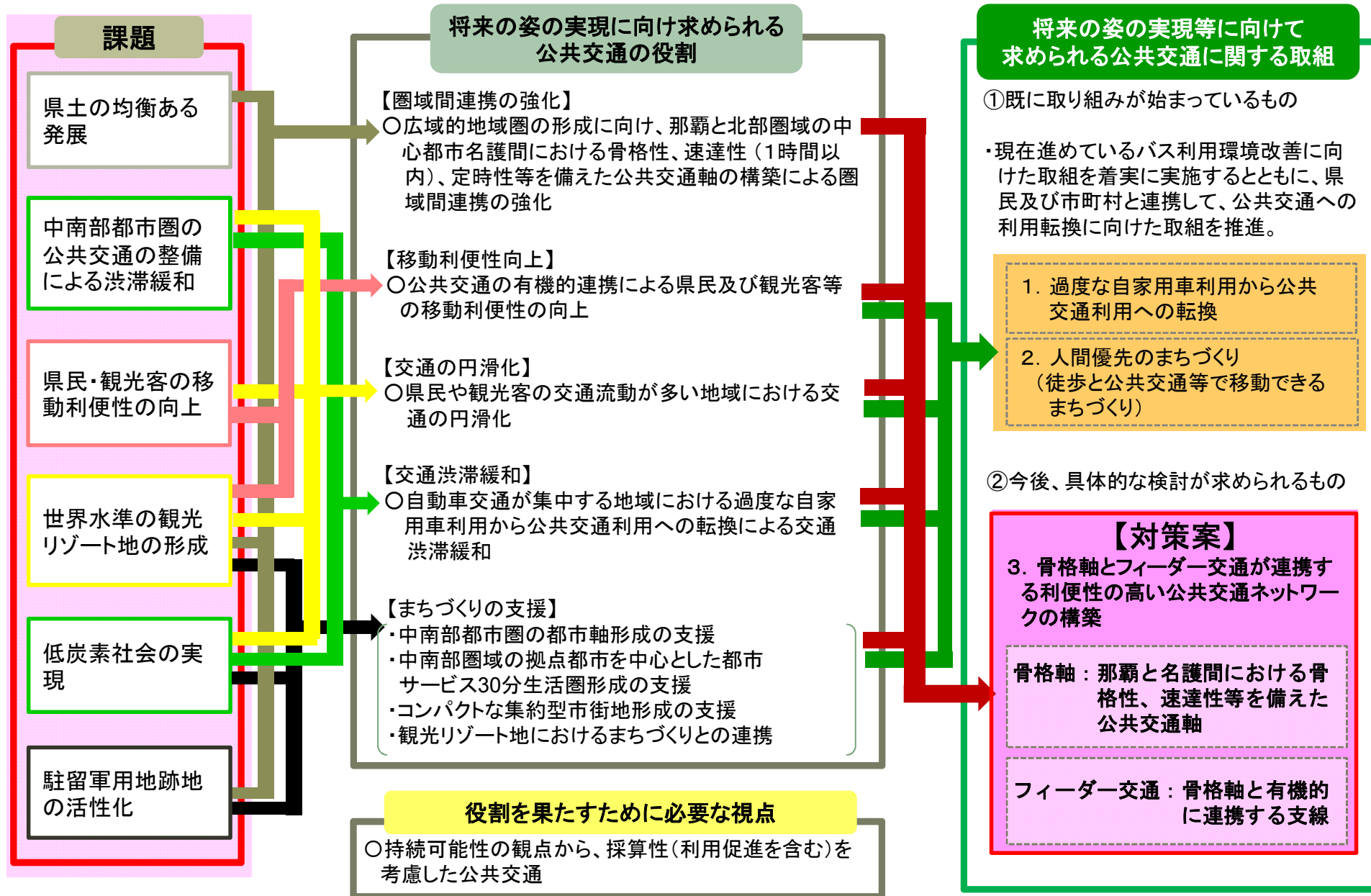
将来像Ⅴ 多様な能力を発揮し、未来を拓く島

- 公平な教育機会の享受に向けた環境整備

など

※沖縄21世紀ビジョン基本計画で示されている施策(抜粋)

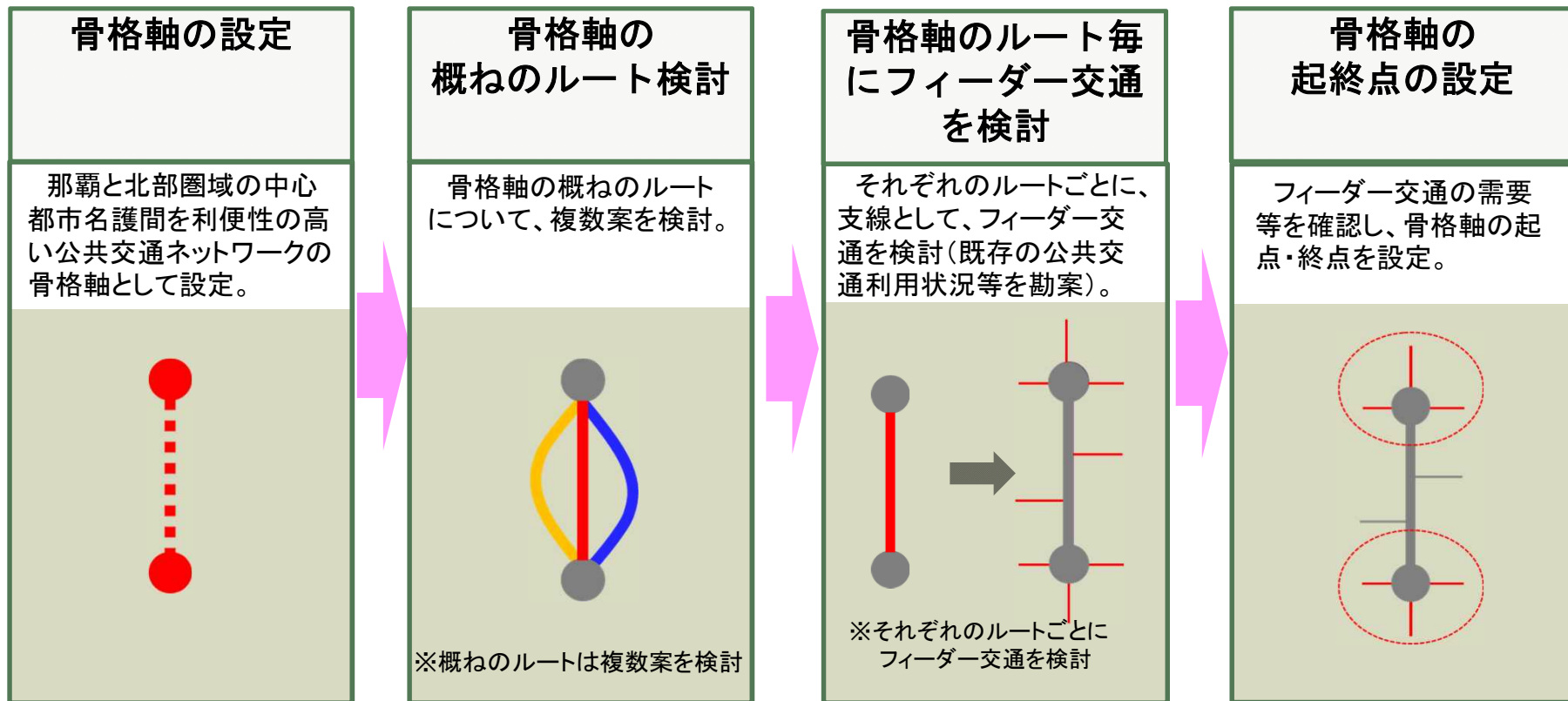
将来の姿の実現等に求められる公共交通の役割・取組



対策案検討の進め方

- ・ 対策案については、骨格軸と骨格軸に接続するフィーダー交通について検討を行う。
- ・ 対策案は、下記手順に基づき「将来の姿の実現等に向けて公共交通に求められる役割」を踏まえ検討を行う。
- ・ 対策案の検討にあたっては骨格軸の検討を柱とし、概ねのルートや起終点等について検討を行うとともに、フィーダー交通については、骨格軸の各ルート案に既存の公共交通のネットワークや利用状況等を勘案し、骨格軸の機能発揮に資するネットワークについて検討を行う。

《検討手順(図はイメージ)》



※対策案の検討にあたっては、「将来の姿の実現に向けて公共交通に求められる役割」を踏まえ想定されるシステムの検討を行う。

公共交通の役割を踏まえた対策案の検討視点

将来の姿の実現等に向け求められる公共交通の役割

【圏域間連携の強化】

○広域的圏域の形成に向け、那覇と北部圏域の中心都市名護間における骨格性、速達性（1時間）、定時性等を備えた公共交通軸の構築による圏域間連携の強化

【移動利便性の向上】

○公共交通の有機的連携による県民及び観光客等の移動利便性の向上

【交通の円滑化】

○県民や観光客の交通流動が多い地域における交通の円滑化

【交通渋滞の緩和】

○自動車交通が集中する地域における過度な自家用車利用から公共交通利用への転換による交通渋滞緩和

【まちづくりの支援】

・中南部都市圏の都市軸形成の支援
・中南部圏域の拠点都市を中心とした都市サービス30分生活圏形成の支援
・コンパクトな集約型市街地形成の支援
・観光リゾート地におけるまちづくりとの連携

役割を果たすために必要な視点

・持続可能性の観点から、採算性（利用促進を含む）を考慮した公共交通

公共交通の役割を踏まえた対策案の検討視点

骨格軸のルート等検討にあたっての視点

① 公共交通軸の構築

・那覇と名護間を速達性（1時間）、定時性等を備えた骨格軸として設定

② 多くの人が利用できる地域を經由

・公共交通ネットワークの骨格軸として大きな交通流動を支える

③ 自動車交通が集中している地域を經由

・自動車交通が集中する地域における公共交通への利用転換

④ まちづくり支援

・中南部都市圏の都市軸の形成強化、北部圏域や中南部圏域のまちづくり支援

上記の視点に加え、持続可能性の観点から採算性を考慮する。

※留意事項

・骨格軸は、速達性を重視することから、ルート検討にあたっては極端な大回りにならないよう留意する。

フィーダー交通検討にあたっての視点

① 骨格軸と地域を効率的に結ぶ

② 既存の公共交通ネットワーク及び利用状況、まちづくりを考慮

上記の視点に加え、持続可能性の観点から採算性を考慮する。